令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3577200888		
法人名	特定非営利活動法人　ありがとさん		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ　だんけぐーと有延		
所在地	山口県岩国市周東町下久原36番1		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町受理日	令和　2年　1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号　山口県総合保健会館内
訪問調査日	令和1年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今持っている力を活かしながら、その人にとって当たり前の生活を送って頂ける様に、一人一人に寄り添った支援をする事が、私達の役割だと思っています。昔なじみの行事を通して季節の移ろいを感じて頂いています。認知症という障害があっても、最後までその人らしく生ききって欲しいと願っています。一緒に生活を送る人として「目配り」「気配り」「心配り」を胸に穏やかな笑顔で関わっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

センター方式のシートを活用され、利用者の言葉や気付き、職員の対応やケアの内容を記録シートに記載されて、利用者の思いや意向の把握に努められています。利用者一人ひとりの、今持っている力を活かしながら、その人らしく暮らしていけるように、行動の裏にある思いを汲み取ろうと努めておられます。職員同士が話しやすい環境にあり、経験年数に関わらずお互いの意見を尊重され、資格取得にも意欲的に取り組まれ、職員一人ひとりがスキルアップ向上に努めておられます。看取りでは、チームで利用者や家族に寄り添ったケアに取り組まれており、看取りを終えた後には全職員で振り返りをされ、反省点を次に活かされたり、全職員が家族にあてて手紙を届けておられ、ご家族の気持ちに寄り添って支援しておられます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：24．25．26）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：19．39）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38．39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：31．32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：29）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

No.	ﾌﾘｶｴﾘ	↓該当するものに○印	取り組みの成果
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：10．11．20）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2．21）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：5）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている （参考項目：12．13）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げ職員はその理念を共有し日々のケアに活かしています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、各ユニットのフロアと職員通用口に掲示している。ユニットごとに職員で話し合い、理念を基に毎月の目標をたて、日々の業務の中で確認して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で実施される一斉清掃に参加し地域住民との交流を深めています。	年1回の地域の清掃に職員が参加している。利用者は、地元の神社に初詣に出かけたり、天神祭に出かけて鯛焼きなどの屋台を楽しんでいる。併設のディサービスセンターに来訪している歌やバルーンアートのボランティアと交流したり、年に数回住職が来訪して、開催している講話に耳を傾けている。施設周囲の散歩時には地域の人と挨拶を交わしたり、筍や柿などの差し入れがあるなど、近隣住民と交流があり、地元の職員から地域の情報を得て、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学に来られた方に介護保険申請手続きから分かりやすく説明しています。また認知症の方に対する不安や疑問なども安心して頂ける様に話をしています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	第三者による評価は事業所のみでは気付けなかった所にも気づかされています。また、それに基づき目標を設定して実現に向けて努力しています。	管理者は、評価の意義について職員に説明している。各フロアごとに評価に取り組み、職員で話し合って書類に記入したものと、各自が自己評価の書類に書き込んだものを、管理者と主任がまとめている。評価に取り組むことで、事業所が求められていることに気付いたり、言葉による抑制の見直しについて目標達成計画をたて、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、社会福祉士事務所所長、地域包括支援センター職員、ご家族、各ユニット管理者が参加しています。毎回取り組みの報告やテーマを決めてご家族や地域の方の意見を聞き話し合いをしています。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の様子、行事予定や報告、職員に関する活動報告をした後で、その時々の状況に応じたテーマで意見交換を行っている。地域包括支援センター職員による介護保険の流れの説明や参加メンバーからの地域の情報、家族の思いを聞くなどして、事業所が地域の理解や支援を得る場として活用し、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターと連携を取り情報共有や相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいます。	市担当者とは、直接訪問して書類の手続きを行ったり、電話やメールで連絡し合い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や研修会時だけでなく、日頃から相談や情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険のないように見守りをしながら入居者さんには自由に過ごして頂いています。散歩に出掛けたり、別フロアへ行くなど工夫をしています。日曜日のみ1階玄関を施錠しています。	他の部署と合同で身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催している。職員は、内部研修で学び、正しく理解して、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外に出たい利用者とは、職員が一緒に外出したり、落ち着かない場合は、別フロアに出かけて気分転換を図っている。スピーチロックについて、管理者は、利用者の行動の裏にある意味を考えて言葉がけするように伝えており、職員も意識して取り組んでいる。気づいた時にはその都度管理者が注意している。、	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い不適切なケアが行われないように管理者が中心となりユニット内で気をつけあっています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士事務所から情報を頂いたり相談にのって貰っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約についてご家族に説明しています。改定がある時は文章でお知らせし、理解、納得をして頂いています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんご家族の意見は皆で共有し、サービスの向上に努めています。相談や苦情の受付体制を定め各フロアに掲示しています。ご家族が遠慮なくスタッフに話が出来るような関係作りを心掛けています。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族からの意見や要望は、面会時、電話時、運営推進会議時、行事参加時などに聞いている。毎月の事業所だよりに加えて、担当職員が写真にコメントを添えた近況報告書を送付したり、面会時には飲み物を用意して、職員が日頃の様子を伝えているなど、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。家族からの要望を受けて、好きな音楽のCDをかけたり、動物番組を録画して視聴するなど、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや普段の会話等で意見交換をします。出た意見を主任会議で話し合い反映させています。	管理者は、毎月の全体ミーティングやフロアミーティング、朝夕の申し送り時に職員からの意見や提案を聞いている。日頃の業務の中でも管理者から声かけし、意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。内容によっては法人内の主任会議に提案して、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフは交代で休憩をとっています。希望する日に休みが取れるように勤務表を組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の案内を回覧し、興味のある研修に参加出来る様になっています。資格修得に向けての研修にも協力しています。	外部研修は、職員に情報を伝え、経験や段階に応じて研修の機会を提供している。受講後は復命報告を行い、資料を回覧して全職員で共有している。内部研修は、年度末に次年度の年間計画と担当職員を決めている。ケアプランって何？、介護の専門性、認知症になった時を考える、事例検討等のテーマを決めており、研修後は職員にアンケートをとり、次回の研修に活かしているが、現在は計画通り実施されていない。新人職員にはマニュアルに基づいたオリエンテーションを行った後、プリセプター方式で1年間働きながら学べるよう支援している。資格取得についても情報を提供したり、取得者がアドバイスするなどして支援している。	・内部研修の計画的な実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、GH協会の研修に参加し、他施設や異業種の方の話を聞く機会があり勉強になっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、ご本人が困っている事、不安な事、要望などを伺い、信頼関係が築ける様に努めています。また、センター方式を利用しながらパーソンセンタードケアの実践に努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問でご家族とよく話をして、コミュニケーションを取るようにしています。入居後も面会時などによく話をし、信頼関係を築けるようにしています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使い、ご本人、ご家族とお話をしてどんなふうに過ごしたいか、生活して欲しいかを会話の中から希望や想いが引き出せるような関係作りを大事に関わっています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々な会話をしながら一緒に家事作業をしたりして一緒に過ごす時間を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やイベントの参加時などにご本人、ご家族、職員の交流を通して良い関係作りを実践しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご友人等自由に面会され気持ちよく過ごして頂ける様、会話の出来るスペースを作ったりお茶などの飲み物も提供しています。また、なじみの場所に出掛けられる様計画、実行しています。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人、教会の仲間等の来訪がある他、年賀状やハガキの受け取り、電話の取り次ぎなどを支援している。家族の協力を得て、教会の日曜礼拝や自宅への一時帰宅、受診やその帰りの外食に出かけているなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の相性を考慮し、良い関係を持続出来るように席を決めています。また、スタッフが間に入り関わりあえるようにしています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先の施設、病院にはサマリーやケアプランを提供しています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、ご本人の話や会話で聞き取ったり、スタッフ同士の話し合いで一人一人の思いや希望を尊重し、無理強いせず思い思いに過ごして頂ける様にしています。	入居時のアセスメントシートやセンター方式を活用している。利用者との日々の関わりの中での、利用者の会話とその時の職員の対応やケアの内容を分けて、シートに記録し、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の意見を参考に，職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から頂いた情報や入居後も会話の中から情報を得られるようコミュニケーションをとっています。ご家族からもその都度教えて頂いています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ｹｱﾌﾟﾗﾝ、ケア記録、伝達事項等を活用し、スタッフ同士で情報を共有し、入居者さん一人一人の状況を把握する様に努めています。食事形態、量、日中の過ごし方などもその都度工夫したいます。		
27	（12）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見、気持ちを取り入れながら担当スタッフがケアプランを作成しています。ケアプラン会議を開催し、意見交換を行っています。	担当職員が本人や家族の希望、かかりつけ医や看護師の意見を参考に介護計画案を作成し、ケアプラン会議で話し合って計画作成担当者が確認している。3ヵ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、できごと、会話、職員の思ったことをケア記録に記入しています。申し送りやスタッフ間の情報交換で援助方法やケアプランの見直しに活かしたいます。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携による健康管理や医療の活用を行っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や訪問美容等の継続した関わり、また、入居前から通っていた馴染みの場所に活けるように援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する医療機関を利用しています。また、受診時には医師に近況報告の手紙をつけています。必要に応じてスタッフも受診に付き添っています。	利用者や家族が希望する医療機関の他、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は、月1回か2回の訪問診療がある。その他の医療機関や他科受診は、家族の協力を得ており、受診時には状況報告書を医師に提出している。職員が受診支援を行い、家族に電話で報告する場合もある。歯科は受診も訪問診療も可能である。夜間や緊急時は、管理者に連絡して指示を受け、かかりつけ医と連携して、適切な医療が受けられる様に支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態報告、薬の変更、急変時には随時報告相談しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供しています。入院中には管理者や看護師が病院関係者と連携を取り合ったり本人の状況を見に行っています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針については契約時に説明しています。重度化、終末期には医師、ご家族、スタッフ等とケアカンファを開き方針を話し合い、より良いご本人が心地よく過ごせるような方針を考え実践しています。	重度化や終末期に向けた方針について事業所でできる対応を契約時に家族に説明している。重度化した場合は、家族、かかりつけ医、職員が話し合い、方針を決めて、全職員が共有して支援に取り組んでいる。看取りを終えた後は、振り返りを行い、全職員が手紙を書いて家族に届けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「ひやりはっと、事故報告書」を作成し、皆で対応を考え、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組むようにしています。事故発生防止マニュアルを作成しています。	対応した職員が、ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書に記入し、その日の職員で対応策を話し合い、申し送りで伝えたり、報告書を回覧している。毎月のフロアミーティングで再度検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時の対応については、誤嚥時の対応など研修で学んだことを復命したり、緊急時マニュアルを元に、経験のある職員が対応する時に指導を受けながら学んでいるが、全職員が応急処置や初期対応の実践力を身につけているまでには至っていない。	・応急処置や初期対応の定期的訓練の継続実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練をしています。(1度は夜間想定)運営推進会議で災害時の避難について話し合っています。緊急連絡網の中に地域の方2名に入って頂いています。風水害マニュアルを作成しています。各階にはスプリンクラーを設置しています。	年2回の消防避難訓練を計画しており、先日1回目の夜間想定の訓練を利用者参加で実施している。夜勤体制による職員の動きや消火器、消火栓による消火、スプリンクラーの止め方、緊急連絡網の確認など、具体的な動きを確認しており、訓練後は反省点を話し合い、今後に活かしている。運営推進会議で災害時の対応について話し合っており、緊急連絡網の中には地域の人2名を登録し、利用者の見守りなどを依頼している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の立場にたち、プライバシーに配慮した声かけをしています。「自分が家族にされて嫌な事は利用者さんにもしない」を心がけています。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に気をつけている。職員は「家族にされて嫌なことはしない」を心がけており、管理者は日頃から言葉づかいに注意して声かけするように伝えている。個人記録は取り扱いに注意し、厳重に保管している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた声掛けをして会話の中で表された「気持ち」を大切にし、表情や仕草などから気持ちを察するようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合わせマイペースで過ごして頂いています。起床、就寝、入浴、食事は無理強いせずご本人の体調は気分に合わせて対応しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容、髭剃りをしています。訪問美容ではご本人の希望する髪型にしてもらっています。また、外出時にはお化粧をしたりお気に入りの服を着てもらっています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を伝えながら、一緒に食事をしています。朝、夕は各フロアキッチンで作るので音や匂いが食欲をそそります。一緒におやつを作ることもあります。片づけ（食器やお盆拭き）をしています。	朝食と夕食は事業所で調理しており、昼食は併設のディサービスセンターからの配食を利用している。調理専門の職員が、利用者の希望を取り入れた献立をたてている。事業所で育てたピーマン、キュウリ、ミニトマトなどの野菜や近所からの差入れの野菜、スーパーで購入した旬の食材を使用している。利用者は、お盆拭き、下膳、食器洗い、食器拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、同じ食事を食べている。利用者の状態に合わせて、キザミ食やミキサー食など形状の工夫をしている。おせち、雑煮、イワシ料理、ちらし寿司、ちまき、ソーメン、夏祭りの屋台(ホットドッグ、わたあめ、たいやき、かき氷、フルーツポンチ)、敬老会のお弁当、クリスマス、年越しそばなどの季節料理やおやつづくり(白玉団子、どら焼き、干し柿など)、誕生日の職員手づくりのケーキなどを楽しんでいる他、家族の協力を得ての外食や個別外出でラーメン、レストランでのエビフライ、カレー、喫茶店のコーヒーを楽しんでいるなど、食べることを楽しむ機会を工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事の形態を変えたり臨機応変に対応しています。水分摂取量の少ない方には好みに合ったものを提供しています。（ポカリ寒天等）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っています。週1回は義歯の消毒をしています。異常を見つけたらすぐに訪問歯科診療を受診出来る様にしています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の表情、しぐさなどから排泄のサインを把握し、その人にとってより良いケアを行う様に努めています。パット等の種類も時間、状況に合わせて使い分けています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と補給をしています。身体を動かす機会を作ったり、腹部マッサージを行っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人のタイミングで入浴を楽しんで頂いています。入浴剤を使ったり、スタッフと1対1の会話を行っています。拒否のある時は無理強いせず時間を空けて再度声掛けをしています。	入浴は毎日可能で、14時頃から17時頃まで、一人ひとりの希望や体調に合わせて、職員と1対1のゆっくりとした時間を楽しんでいる。利用者の状態に応じてシャワー浴や清拭、足浴などに対応し、柚子湯や入浴剤を楽しんだり、利用者の希望する固形石鹸やボディソープなどを使い分けている。入浴したくない利用者には、時間や日にちをずらしたり、職員を変えて声かけするなど、工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子の時は速やかに休んで頂きます。午睡も実施しています。静かな音楽をかけたりカーテンを閉め少し暗くするなど心地よく休めるようにしています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用についてはカルテにファイルして把握しています。症状が変化した時は医師や看護師に報告、相談しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意な事を行って頂ける様支援しています。（洗濯物干し、たたみ、新聞たたみ、お盆拭き等）	テレビ(時代劇、スポーツ、ニュース、動物番組，気象情報など）視聴、DVD(歌など)視聴、新聞や雑誌、チラシ広告を読む、移動図書館で借りた本(皇室写真集、シルバー川柳など)を読む、ぬり絵、貼り絵、折り紙、刺し子、歌、ラジオ体操、風船バレー、ボーリング、わなげ、生け花、歌やバルーンアートなどのボランティアとの交流、季節行事(お花見、夏祭り、敬老会、天神祭、クリスマス、初詣、誕生会など)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、新聞たたみ、ゴミ袋の名前書き、花の水やり、カーテンの開閉、野菜の苗植え、お盆拭き、下膳、食器洗い、食器拭きなど、利用者一人ひとりの好きなこと、興味のあること、できることを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩に出掛けたり、個別外出等でご家族も一緒に楽しめるように支援しています。初詣やお花見等の計画も立てています。	施設周辺の散歩やドライブ（フラワーランドなど）、初詣、天神祭り、近くの公園などに出かけている。外出時には家族にも呼びかけて一緒に出かけたり、現地で合流している。家族の協力を得て、受診や買い物、教会への礼拝、外食などに出かけたり、利用者の希望に添って、ラーメン屋やレストラン、喫茶店、コンビニエンスストアなど、個別での外出支援を行っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてお金を所持し使用している方もおられます。「お預り金」を管理し買い物の代行を行っています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が出せるようにハガキを準備しています。希望がある時はスタッフが電話をかけ話をして頂いています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに季節にあった壁飾りやカレンダーを作成し、それらに合わせた会話を楽しんでいます。季節のお花を活けています。不快な音や光が無いように音量や明るさ、室温を調整しています。	共用空間は、大きなガラス窓から自然の光が差し込み、明るく開放的で、窓から見える田園風景に四季折々の自然や季節の移り変わりを感じることができる。ゆったりとしたソファに腰掛けてテレビを見たり、イスに座って会話を楽しんだり、利用者は思い思いの場所で過ごしている。季節の花を生けたり、壁面には利用者と職員が一緒に作成した季節の飾りや行事の写真を飾り、季節感を感じることができる。キッチンは対面式で調理している姿が見え、音や匂いがして生活感がある。室内の温度や明るさ、湿度、音や換気にも配慮して、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を様々な場所に配置し外の景色を眺めたりテレビを見たり談話を楽しめるようになっています。死角になる所に畳ベッドを置いてあり自由に横になることもできます。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、ご家族の写真などを飾り心地良い雰囲気を作っています。	自宅で使い慣れた整理タンスや衣装ケース、鏡台、テレビ、イス、CDラジカセなどの家具を持ち込み、抱き枕、クッション、ぬいぐるみ、化粧品、アルバム、賞状など大切なものを持参している。カレンダーや職員からの誕生日の色紙、家族の写真、孫が描いた絵などを飾って、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が分かりやすい様に居室前に名前のプレートをかけています。居室のタンスには引き出しに中身が解るようにシールを貼るなど工夫をしています。		

2.　目 標 達 成 計 画

事業所名　グループホームだんけぐーと有延

作成日:　令和　2　年　1　月　25　日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	毎月、研修を確実に行う	スタッフ全員が研修内容を把握して理解を深める	年間計画を立て、それに沿った研修資料を準備する	1年
2	35	急変や事故発生時に備えて全ての職員が応急手当や初期対応の訓練をする	急変や事故発生時にその場に居合わせたスタッフが誰でも対応できるようにする	1. 基本マニュアルと照らし合わせながら研修を行う 2. 処置をするときにそばについて習う ⇒講師:寺本さん	1年
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。